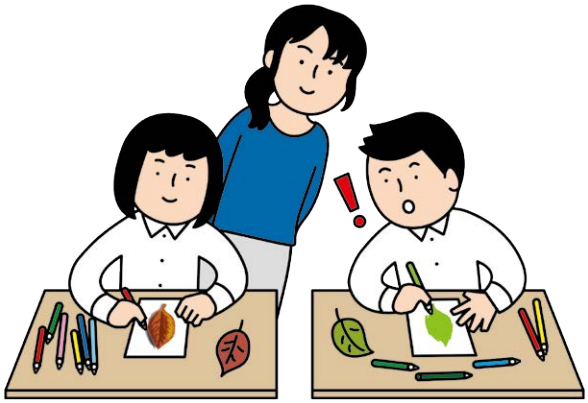
令和３年度版
中学校美術の教科書、
どう使う？

村上センセイの

教科書利用のススメ

村上 尚徳 編著

教科書題材をもとに、どんな授業展開ができるかをご紹介！



本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ!
日文 検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは
予告なく変更または削除する場合があります。

※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの
登録商標です。

令和3年（2021年）度版　中学校美術科内容解説
資料として扱われます。

心が動く、その先へ。

これが好き。なんでだろう？ もっと、知りたい。
心が動く、瞬間。それは、「学び」のはじまり。

感じ、考え、想像し、表してみる。
そこから生まれる、一つひとつが、あなただけのもの。

それを贈り合ったら、うれしくなる。
心が満ちて、次の「やってみたい」が湧いてくる。
ほかの誰かと混ざり合ったら、ちがう景色が見えてくる。

そんな学びが、
あなたの、みんなの世界を耕していく。

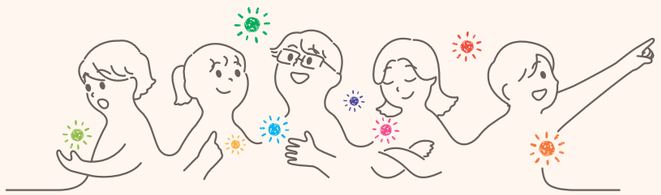
私たちは、学びのはじまりを大切にし、
その先に広がる一人ひとりの未来をともに育みたい。

心が動く、そのそばで。

日本文教出版は創業より、子どもの中に生まれる学びを大切にした
教科書・教材の発行に挑戦し続けてきました。

どんなに時代や社会が変わっても、大切にしたいこと。
その想いを、志（Purpose）に込めています。

私たちはこれからも、一人ひとりの心が動く瞬間に寄り添いながら、
その先に広がる未来をともに育んでいきます。



＼ はじめに ／

中学校美術科は、全ての国民が学ばなければならない義務教育の必修教科ですが、３年生の卒業時と１年生の入学時を比べたとき、何が学びとして残っているのでしょうか。美術科の教科目標には「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することが明示されています。美術や美術文化への豊かな関わり方としては例えば、画家やデザイナーなど美術に関する職業に就くこと、趣味で絵を描いたり美術鑑賞をしたりすること、デザインにこだわってものを選ぶこと、紅葉などの自然や建物などの人工の造形を見て美しさを感じることなどが考えられます。このような造形への関わりは、人により様々ですが、造形的な視点をもっているといろいろなことに気付いたり考えたりでき、美術や美術文化と豊かに関わることができます。描き方、つくり方を学ぶことも大切ですが、造形を捉えたり考えたりするアンテナを豊かにする学びこそが重要です。中学３年間の学びの中でたくさんのアンテナを獲得し、１年生の入学時には、気付かなかったことや考えもしなかったことが、卒業時には豊かに感じ取り考えられるようになる。このような学びの獲得が大切だと考えます。日本文教出版の教科書では、「造形的な視点」を各題材ページに示し、造形的な見方や考え方を働かせてアンテナを獲得しながら学習できるように作成されています。ここでの事例紹介も、そのような点から読み取っていただければ幸いです。

村上尚徳　元 IPU・環太平洋大学副学長

岡山市立中学校教諭、岡山県教育庁指導課指導主事を経て、文部科学省教科調査官、及び国立教育政策研究所教育課程調査官に。平成 20 年、21 年の中学校美術、高等学校芸術（美術･工芸）の学習指導要領、平成 29 年の中学校美術学習指導要領の改訂に携わる。

CONTENTS

1 はじめに

中学1年生

― 美術との出会い ―

4 感じ取ったことをスケッチに　見つめると見えてくるもの
8 あなたなりの視点で描く　なぜか気になる情景
12 折り曲げて味わう　屏風，美のしかけ
16 中学１年生の題材を考える際のポイント

中学2年生

― 学びの実感と広がり ―

18 構図や技法に着目する　浮世絵はすごい
22 単純化・強調で情報を整理する　ひと目で伝えるための工夫
28 イメージの力で伝える　その一枚が人を動かす
34 中学２年生の題材を考える際のポイント

中学3年生

― 学びの探求と未来 ―

36 快適な道を考え，表す　人が生きる社会と未来
40 中学３年生の題材を考える際のポイント

41 おわりに

中学1年生

― 美術との出会い ―

美術１では、中学１年生向けに、新しい見方や感じ方と出会うことで身の回りにあるものの美しさに気付く題材を設定しています。

そんな美術１の題材をもとに、どんな授業が展開できるか紹介します。

美術１ P.12-13　感じ取ったことをスケッチに

見つめると見えてくるもの

ねらい　試行錯誤を通して色に親しみ、理解を深める

造形的な視点
つやつやした感じやかたさなどは，どこから感じるのだろうか。

準備物
・葉っぱ
・画用紙　・色鉛筆　・消しゴム
・視聴覚機器（プロジェクターなど）

［学びの目標］

- 形や色彩，明暗，質感などに着目し，特徴，印象，美しさをとらえ，線の強さや水加減などを工夫して表す。
- 身近なものの特徴や美しさなどをもとに，形や色彩，質感などの工夫を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 身近なものの特徴や美しさなどをとらえて表すことに関心を持ち，意欲的に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標
造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

色鉛筆での色の重ね方を実演してみせる

画用紙の上に葉っぱを置き、その隣に実物大で 1 cm² ほど色を塗る様子を投影機で見せる。色鉛筆を手に「何色を使う？」と問いかけ、「緑」「紫」「オレンジ」など生徒たちが感じた色を発言させて色を塗り、重ねることでの色の変化と、よく観察すると様々な色が見付けられることに気付かせる。

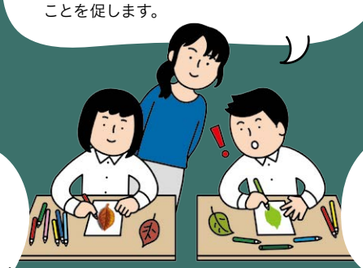
展開

01　葉っぱを実物大で本物そっくりの色で描いてみる

下描きでつまずいているな……
「葉っぱの形をなぞってもいいよ」と声掛け。ハードルを下げるとともに、形ではなく色に集中させます。

「何色に塗ったらいい？」と聞いてくる
「何色が見える？」と逆に問い返して、自分で観察し考え、自分の作品として仕上げることを促します。

集中力が切れてきたかも……
集中力の切れる生徒が出てき始めたら、他の生徒の作品を見て回る鑑賞タイムを挟みます。



ツヤや影の表現をしている生徒がいる
よい気付きのある作品は投影機で映して、他の生徒にも共有します。消しゴムでぼかすなど、具体的なコツを助言してもよいです。

思い込みで色を塗っているみたい……
しっかりと手元で実物の葉っぱと見比べて、見えている色になっているか、確認の声掛けをします。

02　最後に黒板にみんなの作品を貼りだして相互鑑賞

離れて見てみるとまた違った印象に。「意外と上手に描けてる！」と自信につながることも。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント①
葉っぱの「色」をよく観察してみる

村上 教科書には愛用しているグローブや光沢のあるグラスなどの例もありますが、今回のように葉っぱの色に絞って特徴を捉えさせる授業は、取り組みやすくなりますね。
伊藤 そうなんです。小さな画用紙で実物を隣に並べて描けるのもポイントです。小学校でも高学年になると作品を見る目が育ちます。理解力も高まり、理想は高くなっているのに技術が追いつかず、描きたいものと描けるものとの差に自信をなくしてしまう子は意外と多いですね。今回の授業が、そうしたギャップを埋められる内容になるとよいと思います。
村上 同じ色でも、角度によって見え方が違ったり、強弱があります。そうした違いに気付き、意識して描くことで、小学校のときとは全く違う表現ができるようになる。表現することに対しての自信や喜びが、そこに生まれてきますね。

ポイント②
試行錯誤を後の作品づくりに生かす

伊藤 最近の生徒は最短距離を目指す傾向が強いのか「何色で塗ればいいの？」とすぐに答えを求めてくる子も多いです。そんなときは「正解はないよ」と。自分で試行錯誤して過程を楽しむのが美術だよと、伝えるようにしています。
村上 その際、そのもののどういうところを見るとよいか、気付くように指導することが大切ですね。導入の実演のほか、タッチの違うスケッチを何枚か見せて比較するのもよい方法。色を塗っていない白い紙の部分はつやに見えるとか、意図に応じた表現の違いに気付きやすいでしょう。
伊藤 あと、影を勢いで描いている生徒には「影にも柔らかい部分と強い部分があるから、本物をよく見て」と観察を促すことが大事ですね。自分なりの試行錯誤を通し、なんでこうしたのか、根拠をもてるようになってほしいです。
村上 相互鑑賞でも、意識して描いたところを振り返りできるのがいいですね。今回学んだ技能が後に、自分で主題を発想・構想し、描くという一連の題材で生きてくると理想的ですね（★1）。

伊藤亜希子（いとうあきこ） 先生　熊本県 熊本市立京陵中学校教諭
熊本県出身。高等学校での非常勤講師を経て中学校美術教諭になり、22 年目。熊本県図画工作・美術教育研究会研究局長。熊本県の美術協会や美術家連盟などにも所属し、制作活動も行っている。

（★1）学習指導要領解説 P.119 では、指導の効果を高めるために、「A 表現」（1）のア及びイの発想や構想に関する指導内容や、（2）のア及びイの技能に関する指導内容のみを比較的少ない単位時間で単独に扱う題材の設定も考えられるとし、その際は他題材との関連や配当時間を検討し指導計画を作成することが重要としている。

令和3年度版教科書:
美術1 P.12-13

A 表現(1)ア、(2)、 B 鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕

時間数：1 時間

感じ取ったことをスケッチに　見つめると見えてくるもの

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

本題材は、生徒自身での試行錯誤を通して色に親しみ、理解を深めることをねらいとしている。対象物をじっくりと観察してそこに見える様々な色彩に気付くことや、その色彩の調子を表現できるよう、１年生の早い時期に１時間で色鉛筆を使って色を重ねたり強弱をつけたりするなどして自分なりに工夫する技能を育成する指導に重点を置いている。

絵の指導では、基本的に発想や構想と技能の指導事項を関連付けて指導するが、「指導計画作成上の配慮事項」の解説には、時には指導の効果を高めるために、発想や構想又は、技能に関する指導内容のみを少ない時間で単独に扱った題材の設定も考えられるとある。本題材は、発想や構想は位置付けるが、本物そっくりの色で描くというテーマの中で、「つやつやした感じ」「影の柔らかい感じ」などの範囲で主題を表現することにとどめ、主として色彩を捉えて表現する技能に重点を置いている。

学びの目標

形や色彩，明暗，質感などに着目し，特徴，印象，美しさをとらえ，線の強さや水加減などを工夫して表す。

身近なものの特徴や美しさなどをもとに，形や色彩，質感などの工夫を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。

身近なものの特徴や美しさなどをとらえて表すことに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備するもの

・葉っぱ　・画用紙　・色鉛筆　・消しゴム　・視聴覚機器（プロジェクターなど）

造形的な視点

つやつやした感じやかたさなどは，どこから感じるのだろうか。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	Aと評価するキーワードの例
知識・技能	知　形や色彩，明暗，質感などの効果や，造形的な特徴などを基に，よさや美しさ，印象などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技　線の強弱などの色鉛筆の生かし方を身に付け，意図に応じて工夫して表している。	知　多様な視点から 技　重ね塗りの効果を生かし
思考・判断・表現	発　身近なものを見つめ感じ取った形や色彩，質感の特徴や美しさなどを基に主題を生み出し，全体と部分との関係などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。 鑑　造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げている。	発　深く 鑑　多様な視点に立って
主体的に学習に取り組む態度	態表　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく身近なものの特徴や美しさなどを基に構想を練ったり，意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態表　自ら進んで 態鑑　自ら進んで

知　造形的な視点を豊かにするための知識　技　表現方法を工夫し創造的に表す技能　発　発想や構想に関する資質・能力　鑑　鑑賞に関する資質・能力　態表　表現活動への態度　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入　8 分			
①葉っぱを塗る色を考える。	・実物投影機を用いて、葉っぱを大画面に映し出す。 教師「この葉っぱを描く時に何色を使いますか？」 生徒「緑色」「黄色」「黄緑」		
②教師の実演を見る。	・１センチ四方程度の面積で塗ってみせながら、葉っぱを隣に置いて比較し、何色を加えれば色が似てくるかを考えさせる。 ・補色など、何色を重ねればどのような色になるのか実演で確認する。 教師「ちょっと色を塗ってみよう！何色を使えば色をそっくりにできそうかな?」 生徒「ちょっと茶色」「オレンジ」「黒っぽい色」		
展開１　20 分			
③目標を確認する。	**目標：色がそっくりな葉っぱを描こう！** ・生徒の言葉を使いながら目標を決める。		
④各自で葉っぱを描く。	・各自で持参させた葉っぱを小さな画用紙に描かせる。 教師「葉っぱを隣に置いて、まずは何色を塗ってみるといいのか観察して決めよう」 生徒「色鉛筆の色って、鮮やかだな」「一色ではそっくりにはならないなぁ」「葉っぱのつやつやした感じを描きたいな」 ・薄く塗ってみると修正や重ね塗りがしやすいことを伝える。また、用紙の裏に少し重ね塗りの練習をさせてもよい。 ・よい気付きがあった生徒作品をモニターで紹介する。	態表 発	活動の様子 ・忘れた生徒用に、教師側でも校内で拾った葉っぱを数枚用意しておく。 ・形を描くことが難しければ、形をなぞってよいと伝える。 ・個別指導でつまずきのある生徒の支援を行う。 ・タブレットの画面ミラーリングなどの機能を使ってモニターに映したり、写真を撮って紹介したりするとよい。
展開２　15 分			
⑤中間鑑賞会（5 分程度）	・集中力の切れる生徒が出てき始めたら、他の生徒の作品を見て回らせる。 教師「近くの人の作品を見て、いいところを伝えよう」 生徒「何色を使ったの？」「この色すごいね」		
⑥仕上げをする。	・作品と葉っぱを並べて比べさせる。 教師「友達のよい気付きなどをヒントに、自分の葉っぱをもっとそっくりにしよう」	態表	活動の様子 ・個別指導でつまずきのある生徒の支援を行う。
まとめ　7 分			
⑦鑑賞会	・黒板に全員の作品を貼りだして相互鑑賞を行う。 教師「友達の作品をいくつか紹介します。どういうところがいいなと感じましたか？」	態鑑 鑑	活動の様子 ワークシート ・色々な工夫をしている作品を選定する。
⑧振り返りを行う。	・観察で気付いたこと、塗ってみて分かった色彩の不思議なところなどを確認させる。 教師「今日は色彩について、どんなことが分かりましたか？」	知　技	生徒作品 ・描いた作品に対して、生徒自身の言葉でも評価をさせる。

美術１ P.16-17　あなたなりの視点で描く

なぜか気になる情景

ねらい

「気になる情景を発見し、絵の具での表現を楽しむ」

造形的な視点

作者の表したいことと，構図や色の使い方に着目してみよう。

準備物

・教科書　・資料集
・筆記用具　・クロッキーブック
・アクリル絵の具セット
・鉛筆など

［学びの目標］

- 形や色彩，全体の様子などに着目し，そこから生じるイメージをとらえ，絵の具の使い方を工夫して表す。
- 身近な場所のイメージなどをもとに，形や色彩，構図などの工夫を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 気になる場所を見つけ，その特徴をとらえて表すことに関心を持ち，意欲的に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標

造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

「主題」と表現の工夫について考えさせる

教科書や先輩の参考作品などを見せ、それぞれの作品の主題について考えさせます。作者はどんなところが気になり心がひかれたのか、また、それを描くためにどのような工夫をしているのかなどを話し合わせます。「ここは『グラデーション』になっているね」とか、『アクセント』など、美術用語を交えつつ、美の演出には造形的な仕掛けがあることを説明します。（貝原先生）

展開

1 デジカメで「気になる木」を撮影＆スケッチ

基本的な使い方を確認した上で、デジカメを使って校内で自由に「気になる木」を撮影。撮った中から描きたい画像を１枚選び、気になった部分を中心にスケッチ、枝葉の描き方などを理解させる。

2 気になったところを再確認し、主題を決定

名札カードにも気になった理由を色や形の特徴などと関連付けて書かせる。画像やスケッチ、名札カードを見ながら、描く主題を決定する。

3 絵の具の楽しさを理解させ、試し塗りを

アクリル水彩絵の具の特徴と基本的な使い方を説明。マゼンタ、イエロー、シアンの三原色と白で作れる色や混色方法、筆やパレットの使い方、混ぜる水の量などを教え、スケッチブックに試し塗りをする。

4 掲示して意見交換。本番を描く参考に

試し塗りをした紙に名札カードを貼って掲示する。葉の形の描き方や色の塗り方など「人の作品のいい点を探して」と意見交換を促す。

5 中間報告も挟んで作品を仕上げる

水彩紙に鉛筆で下絵を描き、アクリル絵の具を使って着色する。ゴール（主題）を確認するため、制作の途中で中間発表を行い、意見交換。そこで得たことを生かし、作品を仕上げる。

6 作品鑑賞会をする

６人程度のグループで、自分の作品を主題と共に発表させる。互いに意見や感想を出し合うことで、表現したかったことが伝わっているかなど、主題と表現の関係、意図と工夫などについて考えさせる機会に。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント①

「普段、見ているようで見ていないもの」いつもと違う視点で改めて見ることを促す

貝原 基本的には「木」に注目させたいのですが、実際の授業では草花でもよいことにしました。ただし花はそのものが美しいので、独自の気付きや発見がしづらいことも。そこで「普段、見ているようで見ていないものを探してきてね」と伝えました。またデジカメは、マクロやズーム機能、遠近、見る角度などが自在に調整できるので、見方や感じ方が広がり、豊かな発想、構想につながることが期待できます。

村上 普段見慣れている風景も、改めてじっくりと見るといろいろな発見があります。季節や天候の変化、時間の経過による植物の成長など、印象や状況が大きく変わることがあります。そういったことに気付き、豊かに感じ取る力を育成することが大切ですね。

ポイント②

モチベーションを高め自己完結で終わらないための意見交換

貝原 作品に対する意見交換や鑑賞会などは、「人に伝わらなくても自分が描きたいものを描けばいい」という自己満足ではなく、「自分が気になった情景などを人に伝える喜び」や「共感し合う楽しさ」などを理解するための、相互交流の場になってほしいと思い実施しました。また、中学１年では、図工と美術の違いに戸惑っている子も少なくないため、美術の時間は楽しいと早めに感じてもらえるよう、説明やコミュニケーションを重視しています。

村上 風景画は美術の定番題材ですが、単に「美しい風景を見付けて描きましょう」では、１年生にはハードルが高く、描く必要感をもたせにくいものです。溝の格子蓋の間から葉がたくましく伸びているような、なんとなく気になる情景を見付けて描き、紹介し合うような授業展開にすることで、お互いの作品を見て共感が生まれたり新たな発見があったりします。描く楽しさと鑑賞する楽しさが実感できる授業ですね。

貝原訓子（かいはらくにこ） 先生　宮城県 仙台市立桜丘中学校

宮城県仙台市出身。東北生活文化大学卒業後現職。仙台市立中学校の美術科教員を務め現任校は７年目。教職大学院では、主に美術館や博物館とのつながりや、アートカードについて考察。

※掲載している教科書は令和３年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。
※授業の写真は貝原先生が独自に授業教材として作成したものを使用しています。

令和3年度版教科書:
美術1 P.16-17

A 表現(1)ア、(2)、 B 鑑賞(1)ア(ア)、〔共通事項〕

時間数：13 ～ 15 時間

あなたなりの視点で描く　なぜか気になる情景

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

普段見慣れている風景も、改めてじっくりと見るといろいろな発見がある。本題材は、身近にあって普段はあまり気にすることもない「木」や「草花」をモチーフに選び、新鮮な視点で見たときに発見したり感じたりしたことを主題にして、アクリル絵の具を使って描く表現活動である。

またデジタルカメラは、マクロやズーム機能、遠近、見る角度などが自在に調整できるため、気になる木や草花を探す際に活用することで、見方や感じ方が広がり、豊かな発想、構想につながることが期待できる。

学びの目標

- 形や色彩，全体の様子などに着目し，そこから生じるイメージをとらえ，絵の具の使い方を工夫して表す。
- 身近な場所のイメージなどをもとに，形や色彩，構図などの工夫を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 気になる場所を見つけ，その特徴をとらえて表すことに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備するもの

・教科書　・資料集　・筆記用具　・デジタルカメラ
・クロッキーブック　・アクリル絵の具セット　・鉛筆　・水彩紙

造形的な視点

作者の表したいことと，
構図や色の使い方に着目してみよう。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	A と評価する キーワードの例
知識・技能	知　形や色彩などの効果や，造形的な特徴や全体の様子などを基に，美しさや生命感などを全体のイメージで捉えることを理解している。 技　アクリル水彩絵の具の生かし方などを身に付け，意図に応じて工夫して表している。	知　多様な視点から 技　絵の具や筆の効果を生かし
思考・判断・表現	発　身近な場所を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ，場所のイメージなどを基に主題を生み出し，構図などを考え，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練っている。 鑑　造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げている。	発　深く 鑑　多様な視点に立って
主体的に学習に取り組む態度	態表　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく身近な場所の特徴や美しさなどを基に構想を練ったり，意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態表　自ら進んで 態鑑　自ら進んで

知　造形的な視点を豊かにするための知識　技　表現方法を工夫し創造的に表す技能　発　発想や構想に関する資質・能力　鑑　鑑賞に関する資質・能力　態表　表現活動への態度　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入　100 ～ 150 分			
①教科書や先輩の作品を鑑賞する。	・それぞれの作品の主題について考えさせる。作者はどんなところが気になり心がひかれたのか、また、それを描くためにどのような工夫をしているのかなどを話し合わせる。「ここは『グラデーション』になっているね」とか、『アクセント』など、美術用語を交えつつ、美の演出には造形的な仕掛けがあることを説明する。		
②デジタルカメラで「気になる木」を撮影する。	・「普段、見ているようで見ていないものを探してきてね」と伝え、いつもと違う視点で改めて見ることを促す。		・屋外での活動になるため、安全な活動、カメラの扱い方、活動時間に留意する。
③撮った中から描きたい画像を１枚選び、スケッチする。また、その理由を名札カードに書く。	・気になるところを意識しながらスケッチをさせる。 ・名札カードには、気になった理由を色や形の特徴などと関連付けて書かせる。	発	スケッチ　活動の様子
展開１　100 ～ 150 分			
④気になったところを再確認し、主題を決定する。	・画像は参考資料として活用する。写真とは異なる絵画のよさがあることに気付かせ、特に絵に表したいことを主題につなげられるよう指導する。	発	スケッチ　活動の様子
⑤絵の具の使い方を理解し、試し塗りをする。	・マゼンタ、イエロー、シアンの三原色と白で作れる色や混色方法、筆やパレットの使い方、混ぜる水の量などを教える。	技 態表	試作品　活動の様子
⑥試し塗りを掲示して意見効果をする。	・試し塗りをした紙に名札カードを貼って掲示する。葉の形の描き方や色の塗り方など「人の作品のいい点を探して」と意見交換を促す。		・他の生徒の試作を紹介するなどして多様な表現の工夫について考えられるようにする。
展開２　400 分			
⑦鉛筆で下絵を描き、アクリル絵の具で着色する。	・試作より大きく描くことになるため、画面全体のバランスを考えて構図を決めさせる。	発 知 技 態表	作品　活動の様子 制作途中の作品
⑧中間発表会 ⑨作品を仕上げる。	・意見交換をさせ、完成に向けて制作意欲を高めさせる。		
まとめ　50 分			
⑩鑑賞会 ⑪ 振り返りをする。	・6 人程度のグループで、自分の作品を主題と共に発表させる。互いに意見や感想を出し合うことで、表現したかったことが伝わっているかなど、主題と表現の関係、意図と工夫などについて考えさせる。	鑑 態鑑	ワークシート　発言の内容 活動の様子

美術１ P.32-37　折り曲げて味わう

屏風，美のしかけ

ねらい　「日本美術に親しみを持ってもらう！」

造形的な視点
折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるだろう。

国宝　燕子花図屏風　右隻　尾形光琳筆　根津美術館蔵

準備物
・ワークシート
・グループワーク用の図版
・その他屏風の図版など

［学びの目標］
- 構図，余白，折りによる空間や奥行きの表現などに着目し，その効果をとらえる。
- 屏風の表現のよさや美しさ，余白や折りなどの作者の意図と工夫，美術文化について考え，鑑賞する。
- 屏風の表現のよさや見え方の変化などに関心を持ち，意欲的に鑑賞に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標
造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

屏風について発問し、身近なものから思い起こさせる

「屏風って知ってる？」「何のために使われると思う？」などまずは発問し、身近なものから具体的に思い起こさせる時間をもつ。
「結婚式で見たことがある！ とか、豪華な雰囲気をつくるため？ など、自由に発言したあとで調べると、正解を見つけたときに、自分たちの推理が当たった！ と快感が。これが、興味や関心につながっていきます」（長尾先生）

展開

1. 広げた状態の『風神雷神図屏風』をまずは黙って鑑賞し、ワークシートに意見を記入。考えるスピードは生徒それぞれなので、一人で考える時間を与えることで自分なりの意見をもつことができる。

2. 絵を折り、グループで鑑賞。意見・感想を話し合う。空間の奥行きなど、「折り」の効果を実感させて。

3. 広げた状態の『燕子花図』を鑑賞し、感想を言う。反応が薄いときは、教科書の左下にある風景写真を示して比較を。

4. 絵を折り、感想を言う。「奥行き」や「遠近感」とその効果などについて学びを深める。
5. 俵屋宗達、その工房で制作されたとされる『桜下蹴鞠図』、狩野永徳『唐獅子図屏風』、鈴木其一『夏秋渓流図』など、教科書にはない他の屏風も鑑賞させ、折りの効果のバリエーションを見せる。

その後

どこに飾る？ どんな雰囲気にする？ マイ屏風

折りの効果、余白、構図、空間、立体感を意識し、「どこに飾りたい？　どんな雰囲気にしたい？」を大切にして個人で屏風を制作。
「学習で折りの効果を実感すると、自分でも表現してみたい！と思わせることができると感じました」（長尾先生）

屏風以外でも、折ってみると印象が変わる。

私の周りの和風なもの調べ

自身の身の回りにある和風のものについて調べ、レポートにまとめる。冬休みの課題にすると、お正月に様々な和風のものを見付け、経験しやすい。ただの調べ学習ではなく、「造形的な視点」を基に観察し、まとめさせることが大切。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント①
直感的・実感的に味わえるよう促すことが大事

長尾　日本美術に対して中学生は、古い、地味といった先入観がある子も多いので、１年生における日本美術との出会いの演出は本当に大事です。
村上　そうですね。そこで今回の教科書では、屏風の鑑賞において立体的に見ることによる印象の変化や驚き、感動を重視しました。中１では理屈的な側面から美術を味わうことよりも、直観的・実感的に味わうことが大切です。日本美術に関心を持つ入り口として扱えたらいいなと思います。
長尾　私も、導入などでは「身近な所から引き寄せる」ことで、生徒が自分事として思考を深められるようにすることを重視しています。今回の屏風の鑑賞活動についても、そのような視点から授業の流れを考えてみました。

ポイント②
自由な対話を楽しみながら学習の核を押さえる

長尾『風神雷神図屏風』はまず話が盛り上がります。描かれている内容に興味をもち、「神様なの？」「どうして緑？」と、とたんに話しやすい空気が生まれました。その上で折ってみると、「見つめ合ってる！」「動きを感じる！」など余白や構図の面白さも話題に。そういった目で『燕子花図』を見ると、「なんだか花の配置に秘密がありそうだぞ」と、子どもがワクワクしているのを感じました。
村上『燕子花図』は折りと根の位置で遠近が強調され、『風神雷神図屏風』は折りや余白の効果により空間や向きの変化を実感することができます。教科書にも造形的な視点として示している「折りや余白などの構図の工夫による効果」という学習の核を押さえつつ、自由に対話しながら鑑賞を深めることが大切です。他にも面白い屏風はたくさんあるので、バリエーションを見せながら学びを深めることで、お気に入りを見付けられたりすると、日本美術との出会いとしては成功ですよね。

長尾菊絵 先生　東京都 国立市立 国立第二中学校
武蔵野美術大学油絵科卒業後現職。東京都中学校美術教育研究会研究局長を６年間、東京都教師道場リーダーを３年間務めた。平成 23 年「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」作成協力者。

文：塩坂 佳子

※掲載している教科書は令和３年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。
※授業の写真は長尾先生が独自に授業教材として作成したものを使用しています。

令和3年度版教科書:
美術1 P.32-37

B 鑑賞(1)ア(ｱ)、イ(ｲ)、〔共通事項〕

時間数：1 時間

折り曲げて味わう　屏風，美のしかけ

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

中学１年生にとって、日本美術は地味で古い、様式的なものという印象が強く、興味をもちにくい。日本美術との出会いが魅力的になるように、意図的に仕掛ける必要がある。

自分で気付き、興味をもたせ、「他のものも見てみたいな。」「自分でも折ったら変化する仕掛けの絵をつくってみたいな。」と、発展させるための題材である。

学びの目標

- 構図，余白，折りによる空間や奥行きの表現などに着目し，その効果をとらえる。
- 屏風の表現のよさや美しさ，余白や折りなどの作者の意図と工夫，美術文化について考え，鑑賞する。
- 屏風の表現のよさや見え方の変化などに関心を持ち，意欲的に鑑賞に取り組む。

準備するもの

教師：ワークシート、グループワーク用の図版、その他屏風の図版など
生徒：教科書、筆記用具

造形的な視点

折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるだろう。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	A と評価するキーワードの例
知識・技能	知 構図，余白，折りによる空間や奥行の表現などの効果や，造形的な特徴などを基に，よさや美しさなどを全体のイメージで捉えることを理解している。	知 幅広い視野に立って
思考・判断・表現	鑑 日本の文化遺産である屏風などから，よさや美しさなどを感じ取り，余白や折りなどの作者の意図と工夫，美術文化について考えるなどして，見方や感じ方を広げている。	鑑 より深く 自分なりの根拠を持って
主体的に学習に取り組む態度	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい，楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り，余白や折りなどの作者の意図と工夫，美術文化について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態鑑 自ら進んで 新しい視点を探しながら

知　造形的な視点を豊かにするための知識　　鑑　鑑賞に関する資質・能力　　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入 5 分 ①屏風について関心を持つ。 ②屏風についての基礎的な知識を得る。	・屏風について関心をもたせるため、生徒の身近なところから発想を広げさせる。 発問「屏風って知ってる？」 生徒「ひな人形の後ろにある。」「結婚式の時にある。」 発問「どんな感じか、覚えてる？」 生徒「大きな板が折れて立ててある。」 「金ぴかだったり絵が描いてあったりする。」 発問「何のためにつくったのかな？」 生徒「背景にするために使っていた。」 「仕切るために使っていた。」 発問「どんなところに置かれていたんだろう？」 生徒「お殿様とかの後ろに。豪華に見せるため。」 「お寺にあって、雰囲気を出すため。」		・屏風について、今までの経験の中からのイメージを思い起こして興味を持って考えさせる。 ・構造や機能、目的を推理しながら、考えを広げさせる。

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
展開 1　15 分 ③『風神雷神図屏風』を広げたままで鑑賞し、分析する。 ④『風神雷神図屏風』を折り、グループで鑑賞し、班ごとに発表する。	・最初の印象を大切にしながら、造形的な視点で分析するように指示を出し、まずは１分間、各自で黙って鑑賞させることにより、自分なりの見方・考え方をもたせる。 ・気付いたことや感じたことを、ワークシートに簡単に記述し、発表させる。 ・なぜ中央に描かなかったのかについて考えさせることにより、余白の効果について考えさせたい。 生徒「左と右の隅から真ん中に移動している。」 ・折ることにより見え方がどのように変化するかを発見し、作者の意図と工夫について考えさせる。 ・折ることにより余白の面の角度が変化し、右隻と左隻を眺めることで空間の奥行きが強調されることを実感させる。 生徒「風神と雷神が見つめ合っている！」 「こちらに向かってくるように感じる。」	知 鑑	・最初の印象を大切にするため、まずは各自で黙って鑑賞する。 ・造形的な視点に着目して分析するように指示を出す。 発言内容 ワークシートの記述
展開 2　15 分 ⑤『燕子花図』を広げたまま鑑賞し、分析する。 ⑥『燕子花図』を折り、グループで鑑賞し、班ごとに発表する。	・最初の印象を大切にしながら、造形的な視点で分析させる。 生徒「後ろがなぜ金箔なんだろう。」 「模様のように見える。」 ・教科書に掲載されている燕子花の風景写真に注目させた上で、花の配置に着目させる。 生徒「花の配置が波のように上下している。」 「写真では花は横に広がっているのに、絵では花が上下に配置されている。何か意味があるのかな。」 ・折ることにより見え方がどのように変化するのかを発見し、作者の意図と工夫について考えさせる。 生徒「飛び出したり、引っ込んだりしている！」 「山折り部分は手前に描かれていて手前に飛び出してくる。谷折り部分は上の方に描かれていて、奥に引っ込んでいるように見える。」 「遠近感を強調するように配置を工夫したのかな。」	態鑑 知	・自分としての見方・考え方をもたせる。 ・造形的な視点に着目して、根拠を表現させる。 ・折りの効果について、実験して発見させる。驚きを重視したい。 鑑賞の様子 発言内容
展開 3　10 分 ⑦その他の屏風を鑑賞する。	・その他の様々な屏風を紹介し、それぞれの折りの効果について実感的に理解させる。 狩野永徳『唐獅子図屏風』獅子の立体感、対面性 手前の獅子の正面と側面が、面により明確になる。折りの効果により、二頭の獅子の顔が向かい合う。 『桜下蹴鞠図』人の位置関係、空間・奥行き 折りの効果により、左右が短くなり奥行きが生まれ、輪になって蹴鞠をしている様子が伝わってくる。 鈴木其一『夏秋渓流図』川の向き、木立の奥行き 手前の川の流れに方向性が生まれ、木立の奥行きも強調される。 ・その後表現活動につなげる場合には、屏風以外の作品や写真なども折ることにより新しい見方ができることを紹介し、鑑賞させる。 発問「自分が好きな屏風を、自分だったらどんなところに置いてみたいか考えよう。」 「その理由を造形的な視点から説明してみよう。」	態鑑	・折ることで見え方がどのように変わるのか、様々な作品で試し、楽しみながら実感的に理解させる。 鑑賞の様子
まとめ　5 分 ⑧屏風の表現のよさや作者の意図について確認し、ワークシートに記入する。	・屏風の表現のよさや美しさ、余白や折りなどの効果、作者の意図と工夫、そして美術文化について考えをまとめさせる。	鑑	ワークシートの記述

中学１年生の題材を考える際のポイント

中学１年生の発達の特徴とは？

子どもたちは、小学校で６年間、図画工作科を学んだ後に、中学校に入り美術科を学習することになります。美術の学習は、小学校から積み重ねていく部分もありますが、発達段階として中学生の年齢にならないと十分理解できないことや考えることができないこと、興味がもてないことがあります。美術は、単に絵を描いたりものをつくったりする教科ではなく、人間の心や知性の発達と大きく関わり、価値観や概念が形成されたり変化したりしていく中で成立する教科です。特に中学校３年間は、体や心が大きく成長する時期で、発達に即した題材設定や指導が求められます。

中学１年生の年代は、大人に向けて体や心も成長し始める時期で、知的な理解力が高まるとともに、物事を客観的に見たり批判的に捉えたりするようにもなってきます。そのため、友達と比べて自分の作品は本物のように描けていないなどの理由から、美術に対する苦手意識も生じてきます。しかし、美術の学習が、単に描き方、つくり方を学ぶのではないことを理解し、表現や鑑賞の活動を通して、これまで当たり前に見ていた身の回りにあるものなどを、造形的な視点をもって見つめ直すことによりイメージが広がったり新しい発見があったりすることの大切さに気付かせることが重要です。毎日見ている樹木の葉も、曇った日と雨上がりに日に照らされて輝いているときでは全く違ったものに見えます。美術１の教科書は、「美術との出会い」を分冊のテーマにしていますが、このような新しい見方や感じ方との出会いが美術との出会いといえます。そして、そこから感じたことを形や色で自由に表現するところに美術のよさや楽しさがあります。

中学１年生の題材を考える際のポイントとは？

「感じ取ったことをスケッチに　見つめると見えてくるもの」や「あなたなりの視点で描く　なぜか気になる情景」では、身近にあるものや愛着のあるもの、見慣れた風景などを、改めて見つめ直し、形や色彩、場所や空間の特徴や面白さ、よさや美しさなどを感じ取ることを重視しています。その際、例えば身近なものを描く場合、教科書に掲載している【造形的な視点】から「つやつやした感じやかたさなどは，どこから感じるのだろうか。」と問いかけることで、形や色彩、明暗、質感などの造形的な視点に着目して、対象物や参考作品を見るようになり、造形的な見方や考え方が働くことになります。各題材を指導する際には、このような造形的な見方や考え方に気付かせるための具体的な手立てが必要になります。

「折り曲げて味わう　屏風，美のしかけ」では、【造形的な視点】として「折りや余白などの構図の工夫によってどのような効果があるだろう。」と問いかけることで、折りや余白の効果に具体的に着目させ、奥行きやイメージの広がりなどについて考えさせることができます。このように造形的な視点を重視した学習を繰り返していくことで、生徒一人一人の造形を捉えるアンテナが豊かになっていくことが期待されます。

中学２年生

― 学びの実感と広がり ―

美術２・３上では、中学２年生向けに、学び合いや自分なりの試行錯誤を通して、美術の学びを実感するような題材を設定しています。

そんな美術２・３上の題材をもとに、どんな授業展開ができるか紹介します。

美術 2・3 上 P.24-29　構図や技法に着目する

浮世絵はすごい

ねらい　「浮世絵のすごさを知的理解を深めながら味わわせる」

造形的な視点
細くなめらかな線を，
凸版でどのように彫ったのだろうか。

「冨嶽三十六景」より『神奈川沖浪裏』　葛飾北斎　すみだ北斎美術館蔵

準備物
・教科書
・指導書ワークシート

［学びの目標］

- 構図や色彩，線，彫りや摺りの特徴に着目し，浮世絵の作風や作品の印象などをとらえる。
- 浮世絵の表現のよさや美しさ，版画としての特性，制作者たちの意図と創造的な工夫，美術文化の継承と創造について考え，鑑賞する。
- 浮世絵の表現のよさや特性などに関心を持ち，意欲的に鑑賞に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標
造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

西洋と日本の作品を比較して、問いを生み出させる

まずは題名や作者を伏せてゴッホの『日本趣味・雨の大橋』を鑑賞。作者はゴッホだと明かすと「なぜ浮世絵を模写したの？」「本物が見てみたい！」と興味関心が湧き上がる。その上で元となった浮世絵を鑑賞。「やはりこっちの方が日本らしい」などの声が出て、対話が始まる。

教科書 P.30
『日本趣味・雨の大橋（大はしあたけの夕立）』
フィンセント・ファン・ゴッホ

教科書 P.25
『名所江戸百景 大はしあたけの夕立』
歌川広重
1857 年 山種美術館蔵

展開

01　湧き上がった「問い」を追求することで、学びを深めさせる

問　どうしてゴッホは浮世絵を模写したんだろう？
「生前のゴッホは仕送りで生活していたけど、浮世絵は400枚も持っていたなどのエピソードを紹介し、ゴッホも好きだった浮世絵って何？ とつなげていきます」（村上）

問　どうして浮世絵が生まれたんだろう？
「町人文化が栄えた江戸時代、庶民的な絵が分業化された版画で大量生産され、安価で買えるようになった。美術史的な話から、版画の技法につなげるとよいでしょう」（村上）
参照　教科書P.25、P54／指導書動画

問　日本らしいって何だろう？
「指導書ワークシート『なぜゴッホは浮世絵を模写したのか』の2枚目を活用し、西洋の作品と比較鑑賞すると、浮世絵の繊細な表現や大胆な構図が浮かび上がってきます」（杉坂）
参照　指導書ワークシート

問　どうして浮世絵が西洋で流行ったんだろう？
「当時の西洋では、カメラの登場で、リアルな肖像画など写実的な表現の役割が薄れてしまった。そこに平面的で大胆な構図の浮世絵が出てきて、西洋の人たちを魅了したんですね」（杉坂）
参照　教科書P.31

画像提供：PPS 通信社

02　最後に P.26-29 の高精細印刷で再現された浮世絵を鑑賞。
「浮世絵のすごさ」を実感し、よさや美しさを自分なりにまとめさせる。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント ①

知りたい気持ちを高める対話 キーワードの提示で学びに導く

杉坂 作品を自由に鑑賞させ、対話を通して意味や価値を創造的に生み出していけるようにする。そんな『対話型鑑賞』がずいぶん定着してきました。私もまずは自由な鑑賞で、子どもの興味関心を引き出したいと思っています。でも、中学生の発達は実に早くて、対話だけでは早々に満足できなくなります。生徒自身が問いを生み出し、それを追求することで知的欲求を満たし、学びを深めていく。そんな流れをつくることも大切だと思います。

村上 その通りですね。ある程度は自由な対話で進めてよいのですが、多版多色木版であることなど、対話だけでは出てこない内容もあります。時には必要な情報を提示して、学びに導くことも必要ですね。「授業の前と後では作品の印象が違う」「この時間でこれを学んだ」と実感できることが大切です。

ポイント ②

教科書と指導書のフル活用で 浮世絵の魅力を伝える

杉坂 対話が深まると「この細い線は本当に彫っているのか」「この色はどうやって摺っているのか」などと、表現に対する興味が湧いてきます。そんな問いに対して、教科書 25 ページの分業化された制作工程や 54 ページの摺りの流れを紹介。指導書にあるワークシートを使って『神奈川沖浪裏』をトレースさせたりすると、いかに繊細な線が彫られているかが分かり、生徒たちは改めて浮世絵の卓越した技術に驚き、新たな問いを生み出します。

村上 浮世絵は美術史的にも面白いので、作品の背景や絵師、技法などについて学ぶことで見方や感じ方が変わってきます。その多くは教科書に載っていますから、ぜひ参考にしてほしいです。

杉坂 問いを追求することで必然的に学びを押さえていく。「浮世絵ってすごい！」とその理由を実感してもらえるといいですね。

村上 生徒自身が様々な視点を得ながら浮世絵のすごさを実感することで、授業の最後には美術の学びがしっかり残るようにしたいですね。

杉坂洋嗣（すぎさかひろし）先生　東京学芸大学附属竹早中学校
静岡県出身。静岡県東部の公立中学校に勤務したのち、静岡県教育委員会を経て、2019 年より現職。現在、造形教育センター研究部長。

※掲載している教科書は令和 3 年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。

令和3年度版教科書:
美術2･3上 P.24-29

B鑑賞(1)ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕

時間数：2 時間

構図や技法に着目する　浮世絵はすごい

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

浮世絵を模写したゴッホの作品鑑賞から始まる本題材は、「なぜ、ゴッホは浮世絵を模写したのだろうか？」という生徒の問いから始まる題材である。また、中学２年生、３年生は知的欲求が高まる時期である。生徒の知的欲求もくすぐりながら、浮世絵のよさや美しさを味わうことはもちろん、表現の特徴や特性、美術文化の継承や創造についても発展的に探究していきたい。

学びの目標

- 構図や色彩，線，彫りや摺りの特徴に着目し，浮世絵の作風や作品の印象などをとらえる。
- 浮世絵の表現のよさや美しさ，版画としての特性，制作者たちの意図と創造的な工夫，美術文化の継承と創造について考え，鑑賞する。
- 浮世絵の表現のよさや特性などに関心を持ち，意欲的に鑑賞に取り組む。

準備するもの

教師：指導書ワークシート
生徒：教科書、筆記用具

造形的な視点

細くなめらかな線を，凸版でどのように彫ったのだろうか。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	Aと評価するキーワードの例
知識・技能	知　構図や色彩の効果や，線，彫りや摺りなどの特徴を基に，作品の印象などを全体のイメージや浮世絵の作風などで捉えることを理解している。	知　多様な視点から
思考・判断・表現	鑑　浮世絵の表現のよさや美しさを感じ取り，版画としての特性，制作者たちの意図と創造的な工夫などや美術文化の継承と創造について考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。	鑑　幅広く考え
主体的に学習に取り組む態度	態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に浮世絵の表現のよさや美しさを感じ取り，版画としての特性，制作者たちの意図と創造的な工夫などや美術文化の継承と創造について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態鑑　知識を活用しようとし

知　造形的な視点を豊かにするための知識　　鑑　鑑賞に関する資質・能力　　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
導入　20 分 ①ゴッホと広重の作品を比較鑑賞する。	・ゴッホの『日本趣味・雨の大橋（大はしあたけの夕立）』を鑑賞させる。 ・教科書２・３上 P.30 でゴッホの作品であることを確認し、同教科書 P.25 歌川広重の『名所江戸百景 大はしあたけの夕立』を紹介する。 ・ゴッホと広重の作品を比較鑑賞することで、生徒たちに「なぜ、ゴッホは浮世絵を模写したのだろうか？」という問いが生まれる。これを、浮世絵鑑賞を貫く問いとして探究活動を行っていく。	態鑑	・作者名と題名を伏せて提示し、鑑賞させる。 ・作品の印象などを全体のイメージや浮世絵の作風などで捉えさせることに留意する。 発言内容 ワークシートの記述
展開１　30 分 ②西洋絵画と浮世絵を比較鑑賞し、それぞれの表現の特徴に気付く。	・問いをつかんだ生徒は、比較鑑賞を通して、浮世絵だけを見ていても浮世絵らしさが見えてこないことに気付く。そこで、２・３上指導書ワークシート『なぜゴッホは浮世絵を模写したのか』の２枚目で浮世絵の造形的な表現の特徴を、西洋絵画と比較して追究する活動を行う。 ・つかんだ西洋の表現の特徴と浮世絵の表現の特徴を、同ワークシート３枚目に自分なりの言葉でまとめさせ周囲と共有させる。	鑑 知	・生徒の思考の流れ（興味や関心）に沿った必然的な展開になることがポイント。 ・比較鑑賞は単に西洋絵画と浮世絵を比較するのではなく、人物の表現や顔の表現、景色や波の表現、風景や雲などの表現といったような具体的な鑑賞の視点に生徒が気付けるように作品を選択することに留意する。 ・ゴッホが魅了された浮世絵の表現の特徴を共感的に理解できるようにする。 鑑賞の様子 発言内容 ワークシートの記述
展開２　15 分 ③浮世絵の鑑賞。	・前時の授業を振り返りながら浮世絵の造形的な特徴を確認するとともに、教科書 P.31「写真の発明と表現としての美術」を活用し、ダゲレオタイプのカメラの発明によって表現することの意味がどのように変わったのかを問いかけ、表現することそのものについて考えさせ、ジャポニスムの理解につなげる。 ・この時、「なぜ、ジャポニスムが浮世絵から大きな影響を受けたのか？」という問いが生まれ、これが本時の探究活動のきっかけとなる。 ・浮世絵の造形的な特徴を確認しながら多くの浮世絵を比較鑑賞することで大胆な構図や繊細な色彩表現、線の強弱による表現の工夫など、具体的な視点から追究活動を行わせる。この段階は教科書 P.24、P.25 の作品群を使用する。	態鑑	・浮世絵から影響を受けたジャポニスムの作品を教科書や資料集、画集などから紹介する。 ・生徒の興味や関心が浮世絵の制作過程や絵師、彫師、摺師による分業などに及ぶので、教科書 P.25「浮世絵の制作工程」、P.54「北斎の大波」を紹介する。 鑑賞の様子 話し合いの様子 ワークシートの記述
展開３　20 分 ④原寸大図版の鑑賞。	・ジャポニスムが浮世絵から受けた影響をつかみ始めたところで、実際に教科書 P.26 ～ 29 の『神奈川沖浪裏』『三世大谷鬼次の奴江戸兵衛』『当時三美人 富本豊ひな 難波屋きた　高しまひさ』を鑑賞する。原寸大、高精細画像データ、高精細印刷による浮世絵を鑑賞することで、繊細な色彩表現（摺師の技術）や大胆な構図（絵師の感性）を実感しながら理解することができる。	鑑 知	・２・３上指導書ワークシート『浮世絵はなぜすごい？その秘密に迫ろう！』の２枚目を活用し、お気に入りの場面を探してトレースしながら鑑賞させることで、手を動かしながら線による表現（彫師の技巧）を追体験させ、浮世絵の表現の素晴らしさの実感につなげることができる。 鑑賞の様子 活動の様子
まとめ 5 分 ⑤学習の振り返り。	・これまでの活動を振り返りながら浮世絵のよさや美しさを自分なりにまとめるだけでなく、第三者（特に海外の人）に伝えるプレゼンテーションを行う。 ・浮世絵の豊かさ（日本の文化）を伝える立場に立つことで、文化の担い手として、あるいは文化の継承者としての自覚を高める。	態鑑	プレゼンテーションの様子 発言内容 ワークシートの記述

美術 2・3 上 P.38-39

単純化・強調で情報を整理する

ひと目で伝えるための工夫

ねらい　他者の意見を取り入れながら伝達のデザインを追求

造形的な視点
わかりやすい，親しみのあるピクトグラムの特徴は何だろう。

準備物
- 教科書　・指導書動画
- 発想・構想、鑑賞のためのワークシート
- パソコンまたはタブレット

［学びの目標］
- 具体物や行為を表す形の特徴などに着目し，伝達のイメージなどをとらえ，絵の具などの特性を生かし，見通しを持って表す。
- 伝えたい内容やイメージ，伝える場面などをもとに，形や色彩などによる伝達の効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- ひと目で伝わるピクトグラムなどをデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標

造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

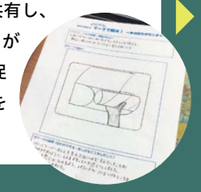
様々な作例を示し、なぜひと目で伝わるかを考えさせる

「教科書に載っている作品のほかにも、自分が海外旅行をした際に撮影してきた珍しいものや最近新しくできたピクトグラムなどを数多く紹介。これはどんな意味だと思う？ などとクイズ形式にして答えさせると生徒の興味や関心を引きます。その後、指導書の動画を活用し伝達のための工夫などについて紹介します」（中島先生）。

展開

1 モンダイを考え、ワークシートに書き出す
まずは各自、学校の中で感じる『モンダイ』について考え、ワークシートに書き出す。それを班で共有し、班員の意見を聞きながら見方を広げ、それぞれが図案化する１案を決定する。生徒同士の話し合える雰囲気づくりも大事に。

2 アイデアスケッチを班で共有する
どんな図案にすれば伝わるかを考え、アイデアスケッチを描く。それをまた班で共有し、他者に対してどのように伝えるのが効果的か（注意・禁止・推奨・促しなど）意見を聞きながら構想を練る。



3 パソコンまたはタブレットで本制作に入る
パソコンまたはタブレットでの制作は、図形の活用により単純化を意識することができ、形や色彩の変更が容易なので試行錯誤にも時間が割ける。他者の意見を取り入れられるよう、単純化、強調、省略のデザインなど、造形的な面でもお互いにアドバイスするよう促す。

4 班単位・クラス全体で発表＆鑑賞会
各自の作品を班単位、次にクラス全体に発表。「これはどんな意味でしょうか？」と尋ねさせ、主題を当て合うクイズ形式の鑑賞会も面白い。『モンダイ』について他者に共感してもらうことが自己評価にもつながる。

パソコンを使った制作手順［例］はコチラ

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント ①

学校の中の課題探しで共感を生む

中島 テーマにする『学校の中のモンダイ』を主体的に見付けさせるには、多くの具体例を示すことが大事。中でも、指導書動画コンテンツはおすすめです。ピクトグラムの歴史やデザインの特徴などがコンパクトにまとまっているので、これを見せてから「では、自分たちの学校の中のモンダイについても考えてみよう」と促すとスムーズです。

村上 あと、作家の作品だけでなく、同じ中学生がつくった参考作品なども見せられるといいですね。主題に共感が持て、それが面白いとなれば「自分もつくってみたい！」と気持ちがノッてきます。

中島 前年度の作品などから、数点ピックアップしておけるといいですね。

村上 作品を仕上げるだけでなく「他者に伝わる」「共感してもらう」ということをいかに実感してもらうかも大事。なので主題設定では、生徒が共通して課題に感じるような問題について、しっかり考えさせられるといいのかなと思います。

ポイント ②

他者の意見を取り入れながら仕上げる

中島 課題出しやアイデアスケッチ、本制作中にも班で共有し、その都度他者の意見を取り入れながら作品を仕上げていくようにします。

村上 伝達のデザインなので、要所要所で他者の意見を聞く必要性が出てきます。初めて見る人に勘違いさせる部分はないかなど、他者の視点を確認しながら制作を進めるのは、対話的でより深い学びにもつながっていきますね。

中島 同じ主題でも、禁止として伝えるのか、別の行動を促すのかなど、表し方によって受け取り手の気持ちや態度が変わってくる。そんな気付きも、班で意見交換させる中で、生まれてくるよう促せるといいのかなと思います。

村上 そうですね。また、初期の段階では主題の意味が分かるかどうか、下書きや完成前の段階では、強調、省略といったデザイン的な部分にも着目してアドバイスをし合うのもいいですね。それぞれの段階で意見交換をする際の着眼点についてもしっかりと押さえて意識させるようにすると、最終的な作品の完成度がより高まると思います。

中島 嵩（なかじま たかし） 先生　大阪府 羽曳野市立河原城中学校

大阪府出身。羽曳野市立中学校教諭、大阪教育大学附属平野中学校教諭を経て、2020 年より現職。現在、大阪府公立小・中学校美術教育研究会中学部長、日本教育美術連盟夏期研究会実行委員も務める。

※掲載している教科書は令和 3 年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。

令和3年度版教科書:
美術2･3上 P.38-39

A 表現(1)イ(イ)、(2)、B 鑑賞(1)ア(イ)、〔共通事項〕

時間数：5 時間

単純化・強調で情報を整理する　ひと目で伝えるための工夫

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

中学２年生には、造形活動を通して他者と関わり、他者への働きかけを意識して行える力の伸長を期待したい。

ピクトグラムは、私たちが生活の中でよく目にするデザインであるが、その形や色彩の効果、工夫については無意識に捉えている。少し意識して鑑賞すると見えてくるそれらのよさや美しさ、工夫、面白さを味わうとともに、自分たちの生活を振り返って見いだした『モンダイ』（危ない、気を付けてほしい、分からない…などの伝えたい物事）をピクトグラムで解決しようと表現する活動を通して、生徒が他者や社会と積極的に関わる力を育みたい。

また、表現方法にパソコンやタブレット PC を用いることで試作や修正が行いやすくなり、図形を組み合わせてピクトグラムを制作することで単純化や強調といった学習のねらいを生徒は意識しやすくなる。

※本題材ではモンダイ（課題）を見つける対象範囲を「学校の中」としたが、地域や学校、生徒の実態に合わせて「身の回り」などモンダイ（課題）の設定を行うとよい。

学びの目標

- 具体物や行為を表す形の特徴などに着目し，伝達のイメージなどをとらえ，絵の具などの特性を生かし，見通しを持って表す。
- 伝えたい内容やイメージ，伝える場面などをもとに，形や色彩などによる伝達の効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- ひと目で伝わるピクトグラムなどをデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備するもの

- 教科書　・指導書動画　・発想・構想のためのワークシート
- 下描き用紙　・鑑賞のためのワークシート
- パソコンまたはタブレット PC とプレゼンテーション作成ソフト

（本指導案では Chromebook と Google スライドを使用）

造形的な視点

わかりやすい，親しみのある
ピクトグラムの特徴は何だろう。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	A と評価するキーワードの例
知識・技能	知　形や色彩などの性質及びそれらの効果や，具体物や行為を表す造形的な特徴などを基に，伝達するイメージで捉えることを理解している。 技　PC の特性を生かし，意図に応じて単純化や強調，省略，構成の工夫などの表現方法を追求して，見通しを持って創造的に表している。	知　多様な視点から 技　効果的に活用し
思考・判断・表現	発　学校の中のモンダイを解決するために，伝える相手や施設，場所などのイメージなどから主題を生み出し，形や色彩が感情にもたらす効果や，分かりやすさと美しさなどとの調和などを総合的に考え，表現の構想を練っている。 鑑　伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。	発　より具体的に より伝わりやすい 鑑　多様な 視点に立って
主体的に学習に取り組む態度	態表　美術の創造活動の喜びを味わい主体的にひと目で伝わるピクトグラムの構想を練り，意図に応じて創意工夫し見通しを持って表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態表　粘り強く 態鑑　自ら進んで

知　造形的な視点を豊かにするための知識　技　表現方法を工夫し創造的に表す技能　発　発想や構想に関する資質・能力　鑑　鑑賞に関する資質・能力　態表　表現活動への態度　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
既習内容	・PC やプレゼンテーションソフトの基本的な扱い方について、生徒が習得しているようにする。図工・美術の既習内容だけでなく、他教科や総合的な学習の時間などでの学習状況も把握しておきたい。		例えば、１年生のときに文字のデザインやフォントについての学習などの一環として、文字や図形を用いた表現を行うとよい。
第一次	**導入　モンダイを見いだす（個人・全体）** ・海外の案内表示を、ピクトグラムと英文を伏せて現地語のみで見せ、何を案内するものか、どんな情報が伝わるかを考える場面を設ける。その後、英文を出しても学習していない単語では分からず、ピクトグラムを見て初めて情報が伝わる体験から、ピクトグラムの効果やよさについて実感を促す。		（例）ヒンドゥー語の「No Littering（ポイ捨て禁止）」の案内表示など。
	・指導書に同梱されている DVD から「ピクトグラム～パッと見て分かる 形や色彩～」を視聴し、どのような活動をするのか見通しを持つ。	態表	活動の様子 ・伝えたい情報やイメージから主題を生み出そうとしているか。
	・ワークシートに『学校の中のモンダイ』として、学校生活において、危ない、気を付けてほしい、分からないなどの伝えたい物事を書き出す。 個人で考えた後、発表の場を設け、学級全体で『学校の中のモンダイ』を広く共有する。同じ問題でも、禁止・注意・促しなどの別の誘導など、伝え方にもいろいろあることを確認する。	発	ワークシートの記述 ・伝える相手や施設、場所などのイメージなどから主題を生み出しているか。 個人で考えるだけでなく、全体で共有することで、学校の中に様々なモンダイがあることを全員が意識して今後の活動に取り組むことができる。
第二次	**発想・構想、他者との意見交流** ・校区や繁華街にある特徴的なピクトグラムをいくつか鑑賞する。		機能的で単純なピクトグラムだけでなく、その場所に応じた創意工夫のあるピクトグラムの面白さやよさ、美しさを感じられるようにする。また、誤解しそうなピクトグラムも課題のある例として役に立つ。
	・交通標識などに用いられている形と色彩の効果について確認する。		教科書や資料集の掲載図版も活用できる。
	・ワークシートに、前時に書き出したモンダイからピクトグラムに表したものを描いてみる。伝え方や表し方を変えてみるなどして、より具体的でより伝わりやすいものになるように工夫する。 活動の途中に、グループで意見交流する時間を設け、他者の視点から、制作中のピクトグラムについての改善点を考える。	態表	ワークシートの記述 ・ひと目で伝わるピクトグラムの構想を練ろうとしているか。
		発	ワークシートの記述 ・単純化・省略や強調を意識し、分かりやすさと美しさなどとの調和、統一感などを他者と確認し合いながら総合的に考え、表現の構想を練っているか。

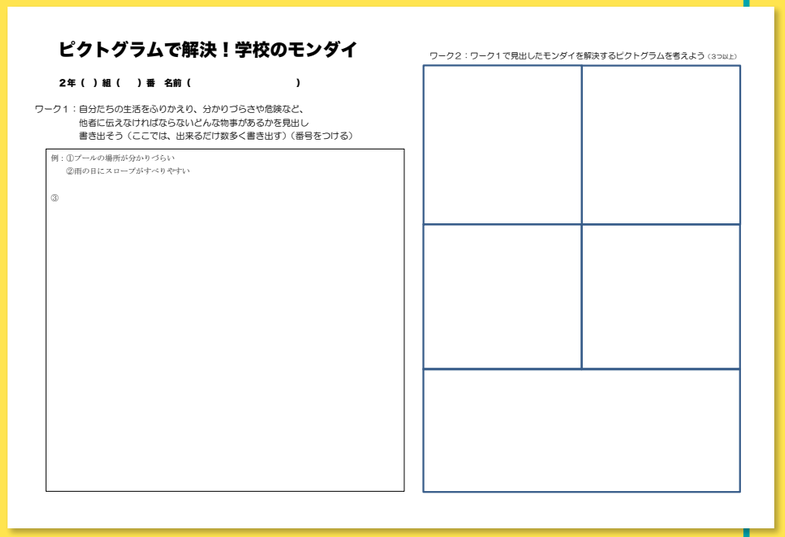
活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
第三次	**下描き、本制作** ・制作の導入として、一見複雑なピクトグラムも円や四角などの単純な形の組み合わせでできていることを学習する。 ・ワークシートで考えたピクトグラムから１点選び、下描き用紙にラフスケッチを行う。他者との意見交流も参考に、伝わりやすさを考えたデザインを全体の大きさやバランスも含めて再考する。 ・下描きをタブレット PC で撮影し、配付されたスライドデータに写真を貼り付け、デジタル制作での参考（下描き）とする。 ・スライド上での制作を進める。	態表 知 技	例えば、マグネットなどを活用した分解・再構築できる掲示物などを教員が自作するなど。 **活動の様子** ・意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしているか。 **制作途中の作品** ・具体物や行為を表す造形的な特徴、伝達するイメージなどを基に PC の特性を生かし、意図に応じて単純化や強調、省略、構成の工夫などの表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているか。 教員はスライドデータ配付前に背景として下描き用紙をスライドに取り込んでおき、作品を配置する場所、名前やキャプションなどをテキストボックスで入力する場所などが分かるようにしておく。
第四次	**本制作、キャプション入力、提出** ・全体の進度を見ながら、できるだけ早い時間にグループでの意見交流の機会を設け、制作中のピクトグラムのよさや改善点を確認する。 ・スライド上での制作を進める。完成後は、キャプション（説明）や名前などを入力し、PDF ファイルでの書き出しとズレなどがないかを確認し提出する。	態表 知 技	**活動の様子** ・他者との意見交流も生かしながら、意図に応じて創意工夫し見通しをもって、ひと目で伝わるピクトグラムを表す学習活動に取り組もうとしているか。 **作品** ・形や色彩などの性質及びそれらが感情にもたらす効果や、伝達するイメージなどを基に、PC の特性を生かし、意図に応じて単純化や強調、省略、構成の工夫などの表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているか。
第五次	**相互鑑賞** ・班での発表を行う。作品を班員に見せ、工夫した点を発表する。班員の鑑賞ワークシートに、その生徒の作品のよさや美しさについてコメントする（作品と鑑賞ワークシートをセットにして班でローテーションするなど）。 ・学級全体での鑑賞を行う。自分の鑑賞ワークシートに、学級内で特によさや美しさを感じた作品２点を選び、具体的に根拠を示しながら鑑賞文を記入する。 ・ワークシートに振り返りを記入する。	態鑑 鑑	**活動の様子** ・伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深めようとしているか。 **ワークシートの記述** ・伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めているか。 振り返りから数点選び全体に発表し、教員によるまとめとともに学習を振り返る。その際、生徒に発表させてもよい。
事後の展開	・作品の展示を行う。		可能な限り、生徒が設定した設置場所に展示したい。 生徒会や環境委員などの特別活動と連携して展示するなど、学校に応じた工夫があるとよい。

ワークシート紹介

PDF は
コチラ

01

実際に、中島嵩先生が授業で使用されたワークシートを紹介します。ぜひご参考ください！

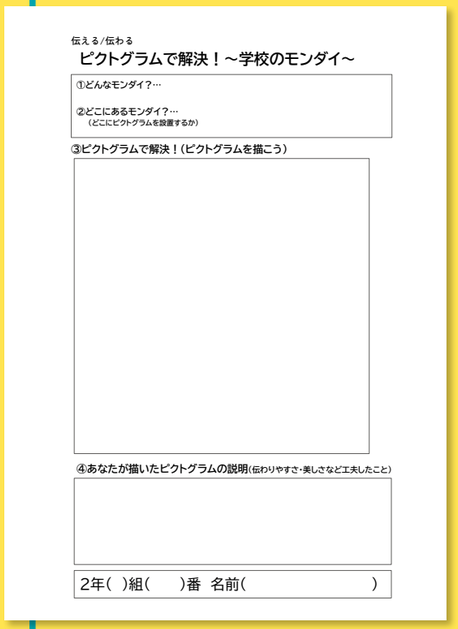

ピクトグラムで解決！学校のモンダイ

2年（ ）組（ ）番 名前（ ）

ワーク１：自分たちの生活をふりかえり、分かりづらさや危険など、他者に伝えなければならないどんな物事があるかを見出し書き出そう（ここでは、出来るだけ数多く書き出す）（番号をつける）

例：①プールの場所が分かりづらい
②雨の日にスロープがすべりやすい
③

ワーク２：ワーク１で見出したモンダイを解決するピクトグラムを考えよう（３つ以上）


伝える／伝わる
ピクトグラムで解決！～学校のモンダイ～

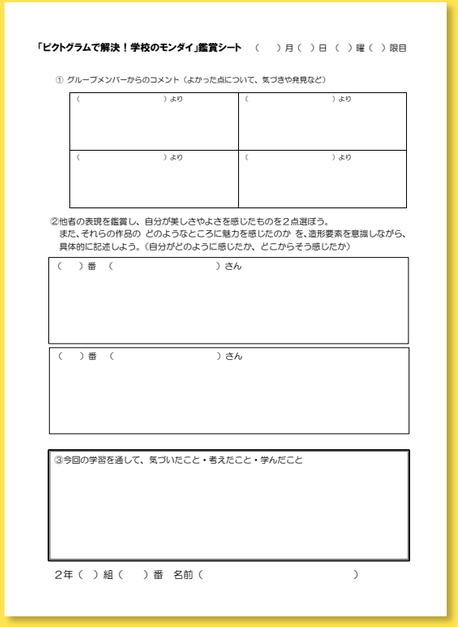
①どんなモンダイ？…

②どこにあるモンダイ？…
（どこにピクトグラムを設置するか）

③ピクトグラムで解決！（ピクトグラムを描こう）

④あなたが描いたピクトグラムの説明（伝わりやすさ・美しさなど工夫したこと）

2年（ ）組（ ）番 名前（ ）


「ピクトグラムで解決！学校のモンダイ」鑑賞シート （ ）月（ ）日（ ）曜（ ）限目

① グループメンバーからのコメント（よかった点について、気づきや発見など）

（ ）より
（ ）より
（ ）より
（ ）より

②他者の表現を鑑賞し、自分が美しさやよさを感じたものを２点選ぼう。
また、それらの作品の どのようなところに魅力を感じたのか を、造形要素を意識しながら、具体的に記述しよう。（自分がどのように感じたか、どこからそう感じたか）

（ ）番 （ ）さん

（ ）番 （ ）さん

③今回の学習を通して、気づいたこと・考えたこと・学んだこと

2年（ ）組（ ）番 名前（ ）

美術２・３上　P.40-41

イメージの力で伝える

その一枚が人を動かす

ねらい　ポスター制作は ICT の活用で時短、主題を追求させる

造形的な視点
わかりやすいポスターは，
どこに工夫があるのだろうか。

準備物

・テーマ模索のためのワークシート（冬休みの課題）
・撮影のためのワークシート
・デジカメとパソコン、またはタブレット

［学びの目標］

- イラストレーションや写真，文字の形や色彩，構成などに着目し，伝達するイメージなどをとらえ，絵の具などの特性を生かし，見通しを持って表す。
- 伝えたい情報やイメージ，伝える場面をもとに，形や色彩，写真やイラストレーション，文字による伝達効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 美しく印象に残るポスターなどをデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標
造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

具体的な例を示しながら主題を深めさせる

「主題は“後輩に送るメッセージ”とし、『廊下を走るな』のような注意や命令的なもの、『未来へはばたけ』といった漠然としたものではなく、中学生活を送ってきた先輩ならではのアドバイスとして後輩に伝えるメッセージを考えるよう伝えました」（梶岡先生）
プレゼン画面や冬休みの課題プリントなどで、メッセージのよい例、悪い例を具体的に紹介し、表現したいメッセージの深堀りを促す。

展開

1　4 人班で構想を練る
それぞれが考えた案を出し合って検討。発想が浅い段階でとどまっている生徒には、自分事に置き換えてもう少し深く追求するよう促す。監督、助監督、撮影、演技の役割分担を決め、ロケハンへ。

2　1 回目の撮影を行う
アングルや光の効果について指導した後、実際に撮影して、いろいろな撮影方法を試す。1 人 1 台のタブレットで撮影できると、その場で複数の生徒で確認しながら試行錯誤ができるのでより効率的。

3　改善点を検討し、2 回目の撮影を行う
撮影した写真を見て改善点を検討。その際、他の班員の案に変更しても OK と伝える。必要な場合は、こちらの意図に合う作品を全体に紹介するなどして、少しテコ入れする。

4　パソコンまたはタブレットでの編集作業
写真を取り込み、文字を載せるなどの編集作業。同じ写真、同じコピーを使ってもトリミングやレイアウトに違いが出るので、班員全員が個別で作品を制作し、1 人 1 作品を提出させる。

5　相互鑑賞会
印刷したものを準備して、班ごとに伝えたかったメッセージや工夫した点などを発表し、他の人から意見をもらう。その後、校内に貼り出すのを恒例とすれば、実際に後輩たちへメッセージを届けられるとともに、次期 3 年生の作品づくりの参考にもなる。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント ①

生徒たちの興味を引く主題設定で活発な対話、意見交換につなげる

村上　今回の 後輩に送るメッセージという主題は、生徒の「やってみたい！」という気持ちを引き出すとてもよい主題設定ですね。
梶岡　主題は、普段の生徒たちの様子をよく見て、何が魅力的か？と考えて設定しています。今回は中学３年生の卒業間近というタイミングから、このような主題設定としました。３年間の中学校生活を振り返り、伝えたいメッセージを突き詰められるよう、４ステップのワークシートで発展的に考えを深め、表現できるように工夫しました。
村上　共感性が高い主題を設定すると、生徒の意欲・関心の高まりはもちろん、グループで考えるときにも話が広がり、より質の高い発想が出てくる。またグループで意見を出し合うことで、思い付きのようなことでも「言ってみようかな」と思え、アイデア出しのハードルが下がるのもよいですね。

ポイント ②

ICT の有効活用により発想や構想の練りこみに時間をかける

村上　従来ポスター制作においては、ポスターカラーなどを使って描くことが多いですが、そうすると、絵の具を塗る技能によって作品の完成度が左右されてしまうということが難点でした。また、制作時間も相当かかりました。その点タブレット等の導入により、制作方法や時間の使い方など、大きく変化していますね。
梶岡　パソコンやタブレットを使えば、写真を撮って簡単に文字を載せることができます。その分、発想や構想の部分により時間をかけられるようになりました。また、最終的には１人１作品を提出させることで、班での分担作業だけでなく、すべての作業を全員が偏りなく行うようにしました。
村上　発想の場面では友達との対話を通して主題を深め、構想や技能の場面では個別に取り組むパートに分けることで、評価のしやすさにもつながりますね。主体的・対話的で深い学びからの授業改善という点からも、伝達のデザインを考えるという今回の授業では、ICT の活用がピッタリですね。

梶岡 創（かじおか はじむ）先生　滋賀県 大津市立打出中学校
大阪府出身。大津市教育委員会指導主事を経て、現職。2012 ～ 15 年、中学校美術 Q&A の運営として全国をまわり、3 年間で 18 回の研究会を実施。現在、滋賀県中学校美術教育連盟委員長も務める。

※掲載している教科書は令和 3 年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。

令和3年度版教科書:
美術2･3上 P.40-41

A 表現(1)イ(ｲ)、(2)、B 鑑賞(1)ア(ｲ)、〔共通事項〕

時間数：8 時間

イメージの力で伝える　その一枚が人を動かす

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

ピクトグラムやポスターなど他者へのメッセージの伝達を主題とするデザインの授業はあるが、中学３年生の終盤に伝える相手として想定できるのは、やはり後輩たちなのではないだろうか。この題材は、中学校で３年間を過ごしてきた先輩としてのアドバイスや激励、あるいはマメ知識といったものを写真とキャッチコピーで表現するものである。主題の検討からロケハン、演技や撮影方法、言葉選びや画像編集など多岐にわたる工夫と相談が必要であるため４人班で制作を進める。それぞれが得意とする力を発揮し、それらを結集して実現してくれることが期待できる課題である。

事前に亀倉雄策「東京オリンピック 64」ポスターの鑑賞を経て、印象に残る写真作品がどのように生み出されたのかについて学習した翌週から始める題材である。

学びの目標

- イラストレーションや写真，文字の形や色彩，構成などに着目し，伝達するイメージなどをとらえ，絵の具などの特性を生かし，見通しを持って表す。
- 伝えたい情報やイメージ，伝える場面をもとに，形や色彩，写真やイラストレーション，文字による伝達効果を考え，構想を練ったり鑑賞したりする。
- 美しく印象に残るポスターなどをデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備するもの

- テーマ模索のためのワークシート（冬休みの課題）
- 撮影のためのワークシート
- デジカメとパソコン、またはタブレット

造形的な視点

わかりやすいポスターは，
どこに工夫があるのだろうか。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	A と評価するキーワードの例
知識・技能	知 イラストレーションや写真，文字の形や色彩，構成などの効果や，造形的な特徴などを基に，伝達するイメージなどを捉えることを理解している。 技 写真の特性を生かし，意図に応じて表現方法を追求して，見通しを持って創造的に表している。	知 多様な視点から 技 効果的に活用し
思考・判断・表現	発 伝えたい情報やイメージなどを基に，伝える相手や場面などから主題を生み出し，美的感覚を働かせて形や色彩，写真，文字による伝達の効果を総合的に考え，表現する構想を練っている。 鑑 伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。	発 より具体的に 鑑 多様な視点に立って
主体的に学習に取り組む態度	態表 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝える目的や機能を考えて美しく印象に残るポスターの構想を練ったり，意図に応じて自分の表現方法を追求し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝えたい情報やイメージとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態表 粘り強く 態鑑 独創的な視点で

知 造形的な視点を豊かにするための知識　技 表現方法を工夫し創造的に表す技能　発 発想や構想に関する資質・能力　鑑 鑑賞に関する資質・能力　態表 表現活動への態度　態鑑 鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
第一次 導入	・どのような活動をするのか知らせる（プレゼン画面を使った説明） ・どのようなメッセージを表現する写真にするのか、テーマを考えワークシートを配布する ・卒業後も校内に残る後輩へのアドバイスを先輩からのメッセージとして考えるよう伝える	発 態表	メッセージは「廊下を走るな」のように、教師の注意のようなものではない。かといって「未来へはばたけ」「夢をつかめ」といった漠然としたものでもない。中学生活を送ってきた先輩だからこそ言えるアドバイスになるよう、突き詰めさせたい。 ワークシートの記述 ・伝える相手や場面などから主題を生み出しているか。 活動の様子 ・後輩に伝えるよりよいメッセージを考えようとしているか。
第二次	・企画会議１ ・班員それぞれが考えた案を出し合って検討 ・撮影、演技、監督などの役割分担 ・ロケハン（校地内の探索）	発 知	班員全員が順に案を発表できるように促す。「廊下を走るな」のような注意の段階でとどまっている生徒には、廊下を走ってどんな失敗をしたか、どんな思いをしたか、など自分事に置き換えて発想を前に進ませる。 ワークシートの記述 ・写真、文字による伝達の効果を総合的に考え、表現する構想を練っているか。 ・感情にもたらす効果や、伝達するイメージなどを捉えることを理解しているか。
第三次	・撮影１ ・アングルや光の効果について指導 ・実際に撮影して感じをつかむ ・いろいろな撮影方法を試す	技 態表	小道具など不足している準備物があれば、それに気付き、次への課題とさせる。 制作途中の作品 ・写真の特性を生かし、意図に応じて演技や表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているか。 活動の様子 ・意図に応じて自分の表現方法を追求しようとしているか。

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
第四次	・企画会議 2 ・撮影した写真を見て改善点を話し合う ・同じ案で撮り直すのか別の案に移るのか ・撮影 2		パソコンの画面上で前回撮影したものを確認できるように。 不十分な話し合いのまま急いで撮影に向かってもむだ足に終わるということを伝え、浮き足だたないよう指導。本日撮影できなくても焦らないよう伝える。
第五次	・撮影 3 ・仕上げの撮影をする意気込みで	技	さらに新しい案（別の生徒の案）にチャレンジしてもよい。 制作途中の作品
第六次	・パソコンでの編集 1	発	撮影が終わっていない班は、撮影してから合流する。 トリミングやレイアウトに違いが出るので同じ写真、同じコピーを使ったとしても班員全員が個別に制作する。 ワークシートの記述　制作途中の作品 ・写真、文字による伝達の効果を総合的に考え、表現する構想を練っているか。
第七次	・パソコンでの編集 2 PDF で保存し、サーバーにデータで作品を提出させる（1 人 1 作品）	技	制作途中の作品 ・パソコンによる編集の特性を生かし、意図に応じて演技や表現方法を追求して、見通しをもって創造的に表しているか。
第八次	・相互鑑賞会 班ごとに伝えたかったメッセージや工夫した点などを発表して、級友からの意見を聞くような形で進行させる	鑑 態鑑	印刷したものを準備しておく。 発表の内容　ワークシートの記述 活動の様子 ・伝えたい情報やイメージとの調和を感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めているか。

ワークシート紹介

02

実際に、梶岡創先生が授業で使用されたワークシートを紹介します。ぜひご参考ください！

PDF は
コチラ

冬休みの課題 美術

学校廊下にいくつも飾ってある**「後輩に送るメッセージ」**を思い出してください。
校内でポーズをとって、写真を撮影して、そこに文字を打ち込むというものです。
今回の課題は・・・・・
その**メッセージをあらかじめ考えておく**ことです。

案を考える時の条件 → 指示が**強すぎてもだめ、弱すぎてもだめ**。中学生活を過ごしてきた君たちだからこそ可能なアドバイスになっていること。

つよすぎ

強　**手を洗おう、ベル着を守れ　廊下を走るな　提出物をちゃんと出そう**・・・・などは教師でも言いそうな強い指示です。強すぎると注意や命令になってしまって**ダメ**ですよね。 ✕

ちょうど良い

どういうことに気を付けて過ごせばよいかがわかる、先輩らしいアドバイスが感じられます。どちらの作品も（先生には書けないけど）中学生だからこそ書けることなので**マル**。 ◎

よわすぎ

弱　**「Let's　Enjoy！」とか「未来へ羽ばたけ」とか、「夢をつかめ」**・・・・などは歌の歌詞に出てきそうな格好いい言葉ですが、何をどうアドバイスしているのかわからないので**ダメです。** ✕

後輩に残すメッセージ

3年　組　番
名前

ここに記入して提出

言葉　ポスターに載せるような短くてキレのある言葉が今の段階では難しいと感じたなら、自分の言いたいことを長い文章で説明してもかまいません。

強すぎず、弱すぎず、ちょうどいい内容になってますか？

◆**「廊下を走るな」のような強すぎるテーマしか思い浮かばないときは**・・・廊下を走ったらどうなるかを考えます。
廊下を走った時→曲がり角で異性とぶつかりそうになった→気まずかった、恥ずかしかった（など）
⇒自分の経験や感想にまで落とし込んでから考え・・・中学生らしい言葉を生み出す

◆**「未来をつかめ」のような弱すぎるテーマしか思い浮かばないときは**・・・分解して置き換えてみよう
「未来」と「つかむ」に分解する→未来っていつ？→卒業する時？明日のテスト？次の試合？高校入試？
つかんだ状態ってどういう状態？→つかむためには中学生の間にどんなことに気を付ける？→アドバイスになる

略図　「こんなシーンを写真に撮りたい」という希望を略図でかいてみよう。（略図なので棒人間でもいいし、建物も四角でかまいません。撮影場所や動作などを文字で補足してもかまいません。何人の生徒が登場して、どんなポーズをしているかは書きましょう。

中学２年生の題材を考える際のポイント

中学２年生の発達の特徴とは？

中学２年生の年代は、さらに大人に向けて体や心も成長する時期で、知的な理解力も一層高まるとともに、物事の表面だけでなく内面や本質などを捉えることにも価値や関心が高まる時期です。学びへの好奇心が高まる一方で、自分にとってその学びがどのような意味や価値があるかなどを考える生徒も少なくありません。美術は、感覚的な学びも必要ですが、教科として授業を受ければ多くの生徒が「なるほど」「分かった」「できた」などの学びの実感が得られることが大切です。美術には、長い歴史の中で多くの人々が試行錯誤しながら発見し、蓄積してきた造形的な視点や考え方、表現方法などがあります。美術２・３上の教科書は、「学びの実感と広がり」を分冊のテーマにしていますが、このような先人が獲得してきた造形的な見方や考え方を学ぶことで、これまで気付かなかったことに気付いたり、興味がなかった作品などにも価値や意味を見いだしたりできるようになります。例えば、静止している彫刻から動きを感じられるのはなぜか。墨だけで描かれた水墨画から、空間の広がりや立体感、迫力などが感じられるのはなぜか。また、使う人のために、デザインがどのように工夫されているのか。それらの秘密や仕掛けを学ぶことで新たな発見があり、美術の学びが深まり世界が広がります。

中学２年生の題材を考える際のポイントとは？

「構図や技法に着目する　浮世絵はすごい」では、浮世絵版画を取り上げ、大きな図版で大胆な構図や鮮やかな色彩などに着目して作品を捉えさせ、西洋の写実表現とは違ったよさや美しさを感じ取らせます。【造形的な視点】として「細くなめらかな線を，凸版でどのように彫ったのだろうか。」と問いかけることで、木版画で表現され、彫師や摺師の高い技術に支えられて制作されていることなどを実感させます。加えて、江戸時代に庶民が安価で親しむために、木版画という制作方法がとられたこと、海外で高く評価され、印象派の画家たちにも大きな影響を与えたことなどを学ぶことで、浮世絵版画に対する見方や感じ方は変わっていきます。美術の学習では、生徒自らが気付き、学びを深めていく内容もありますが、多版多色木版であることや印象派の画家などに影響を与えたことなどは、絵を見ただけでは気付くことができません。教師が場面やタイミングを見計らって視点や情報を与えることで、学びを実感し美術の世界が広がることにつながります。

「単純化・強調で情報を整理する　ひと目で伝えるための工夫」や「イメージの力で伝える　その一枚が人を動かす」は、生活や社会の中で使われているピクトグラムやポスターなどの形や色彩などによる伝達表現を学ぶ題材です。どちらも同じ伝達表現ですが、ピクトグラムは「一目で分かる」こと、ポスターは「印象に残る」「気持ちが動く」ことが重視されます。これらの違いや工夫する視点などを整理して学ぶことで、伝達のデザインに対する見方や考え方が深まっていきます。知的な理解力が高まる２年生の時期は、造形的な視点や考え方、表現方法、作品の背景などを知ることで学びが深まり美術の世界が広がっていくことが期待されます。

中学３年生

― 学びの探求と未来 ―

美術２・３下では、中学３年生向けに、自分自身を見つめ、社会や未来を意識し新たな価値を創造できるような題材を設定しています。

そんな美術２・３下の題材をもとに、どんな授業展開ができるか紹介します。

美術2・3下 P.44-45　快適な道を考え，表す

人が生きる社会と未来

ねらい　「身の回りにある美術」に豊かに関わる視点を持つ

造形的な視点
通る人に対して
どんな工夫がされているだろうか。

準備物
- 教科書　・ワークシート
- 視聴覚機器（プロジェクターなど）
- 制作に必要な材料、用具など
- 絵の具など

［学びの目標］
- 形や色彩，空間や機能に着目し，道のイメージをとらえ，材料や用具の特性を生かし，見通しを持って表す。
- 道としての機能，通る人の心情や安全性などをもとに，形や色彩，材料，空間などの効果を考え，構想を練ったり，鑑賞したりする。
- 通る人の思いなどを考えて道をデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

造形的な見方を豊かにする視点や、技能に関する目標　発想や構想、鑑賞に関する目標　主体的に学習に取り組むための目標
造形的な視点　題材ごとに掲載している造形的な視点は、指している図版に対して、全体の感じからの印象や気づいてほしいことを示しています。

導入

意識していない造形的な工夫に気付かせる

生徒が住む地域の道路や普段通っている場所の写真を撮って、紹介。「道路が色分けされている」「柵の形が変わっている」など、まずは見たままで気付いたことを発言してもらう。色や形の変化が工夫だと気付いていない場合は「なぜ色が分かれているんだろう？」「なぜこんな形なのだろう？」と問いかけ、生徒たちが考え、気付くよう促していく。

分かりやすい参考資料で気付かせるのも有効。

展開

1 アイデアスケッチで発想や構想を練る

「〇〇につながる道」という主題を設定して、〇〇の部分には、病院や公園、神社、図書館など、身近かつ現実的なものを思い浮かべさせると、発想や構想が広がりやすくなります。

人と乗り物のエリア分けや植栽について考えさせる声掛けが、アイデアのヒントになることも。

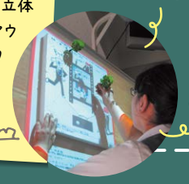
海や山など、イメージの広い場所を設定して考えさせるのもよいですね。

2 対話により大事な視点を確認 アイデアを広げる

アイデアスケッチをプロジェクターなどで投影して、立体物の試作品をレイアウトしてみると、対話的にアイデアが広げられます。

こんなものもあったらいいんじゃない？

ここがいいかな？



数名のアイデアスケッチを参考に鑑賞させるなどして立体制作に入る前の構想を確認する場をつくって、考えさせることが大事ですね。

ここまでで短時間題材の授業としてもよさそうです。

3 立体制作で形や色彩だけでなく材料による工夫も実感

既存の材料でも、工夫次第で様々な使い方ができることに気付かせられるとよいです。

100円ショップなどを活用すると、様々な材料（芝生のシール、フローリングシート、透明素材やチェーンなど）が用意できます。

アクリル玉は照明に使えそう！

4 相互鑑賞で工夫を共有 他者の視点を取り入れる

鑑賞だけでは気付かれない点も多いので、作者本人が工夫したポイントも発表で紹介できるとよいです。

歩行者目線の角度で撮影をするなど、道として「安全・円滑・快適」を検証しながら鑑賞することが大事です。

この題材について、授業における学習の「核」とは何か、２つのポイントを語っていただきました。

ポイント①

相手を思う、社会を思う道のデザイン

高藤 本題材は、「絵画・彫刻」のように自分の思いを全面に出すのではなく、社会や環境を考慮し、周りの人に向けて制作する「デザイン・工芸」の分野であることを理解させることが重要です。道の機能である「安全・円滑・快適」がキーワードで、これは最終的な評価の基準にもなります。奇抜さやユニークさに注目したり、空想の世界に行き過ぎないよう、各段階で造形的な視点や考え方を確認することが必須になってきます。

村上 まずは導入時に、分かりやすい例を提示できるといいですね。なんとなく歩きにくいと感じる道と歩きやすい道の写真を比べるなど。すると、車道の横に自転車や歩行者用の道路が色分けしてある、舗装もザラザラした材質で雨水を吸い取っているといった工夫が見えてくる。最初に「なるほど！」と思うことができれば、発想や構想にも入りやすいと思います。

ポイント②

視点や考え方を押さえられれば展開方法は様々で OK

高藤 私の授業では、展開②の部分で道路の表面のアイデアスケッチをプロジェクターで投影して簡易的なプロジェクションマッピングとし、標識や木など立体物の試作品をみんなでレイアウトしてみる活動を入れています。短時間での題材として取り組む場合は、ここで対話を促し、気付きを深めることで終了という形もありかと思います。

村上 そうですね。今回は制作の技能より視点や考え方が重要。発想や構想、鑑賞の中で、そこをしっかり押さえられれば、方法はアイデアスケッチでも立体でも、あるいは生徒が撮ってきた写真での対話だけでもよいかもしれません。

高藤 生徒は最初、道は美術と関連がないと思っています。活動を通して美術の働きが身の回りにあふれていることに気付かせられればと思います。

村上 道は形や色彩、材料も含めてデザインすることで、通る人に様々な感情を与えられる。そのことを知り、生活や社会の中にある美術を感受するアンテナを立てていくことが大事ですね。

高藤友輔（たかふじゆうすけ）先生　埼玉県 さいたま市立 大宮南中学校教諭

北海道出身。さいたま市立中学校教諭、埼玉大学教育学部附属中学校教諭を経て、2019 年より現職。これまで、美術科として埼玉県やさいたま市の教育課程の資料等にかかわる。

※掲載している教科書は令和 3 年（2021 年）度版 中学校美術科教科書です。

令和3年度版教科書:
美術2･3下 P.44-45

A表現(1)イ(ｳ)、(2)、B鑑賞(1)イ(ｱ)、〔共通事項〕

時間数：6 ～ 10 時間

快適な道を考え，表す　人が生きる社会と未来

※本題材は、令和３年４月より使用されている教科書に掲載されています。

題材設定の理由

美術は人間が生きていく上で関わりの深い教科である。本題材は、通る人の心情や道路周辺の住民の気持ちや安全性などを考えながら、道路の用途や機能、景観面での美しさなどとの調和を総合的に考えて構想を練り、様々な材料で表現する題材である。そのため、「現実に即した場所につながる道」を設定することが大切である。道の機能である「安全・円滑・快適」をキーワードに表現や鑑賞を行い、活動を通し、生活や社会を美しく豊かにするための美術に気付かせたい。

模型制作が最終目的ではないため、道路の分析・調査の発表や、アイデアスケッチの共有までで終わらせ短時間の題材として扱うこともできる。

学びの目標

形や色彩，空間や機能に着目し，道のイメージをとらえ，材料や用具の特性を生かし，見通しを持って表す。

道としての機能，通る人の心情や安全性などをもとに，形や色彩，材料，空間などの効果を考え，構想を練ったり，鑑賞したりする。

通る人の思いなどを考えて道をデザインすることに関心を持ち，意欲的に取り組む。

準備するもの

・教科書　・ワークシート　・パソコンまたはタブレット PC
・制作に必要な材料・用具　・プロジェクター

造形的な視点

通る人に対して
どんな工夫がされているだろうか。

◎評価について

評価の観点	題材の評価規準例	Aと評価するキーワードの例
知識・技能	知　形や色彩，材料，光などの性質とそれらがもたらす効果や，空間や機能など造形的な特徴などを基に，道を全体のイメージなどで捉えることを理解している。 技　材料や用具の特性を生かし，意図に応じて表現方法を追求して，制作の順序などを総合的に考えながら，見通しを持って創造的に表している。	知　多様な視点から 技　効果的に活用し
思考・判断・表現	発　道としての機能，通る人の心情や安全性などから主題を生み出し，形や色彩，材料，空間などの効果や美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練っている。 鑑　身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り，通る人の心情や安全性，安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。	発　多様な視点に立って 鑑　多様な視点に立って
主体的に学習に取り組む態度	態表　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に道としての機能や通る人の心情を考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑　美術の創造活動の喜びを味わい主体的に社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	態表　粘り強く 態鑑　知識を活用しようとし

知　造形的な視点を豊かにするための知識　技　表現方法を工夫し創造的に表す技能　発　発想や構想に関する資質・能力　鑑　鑑賞に関する資質・能力　態表　表現活動への態度　態鑑　鑑賞活動への態度

◎学習の流れ

活動内容	指導者の働きかけ	評価	留意点及び評価方法など
第一次 導入	**身の回りの道路を鑑賞する（調査･分析･発表）** ・生徒が住む地域の道路や普段通っている場所の写真などを用い、道路の色分けや柵の形など、形や色彩の性質や効果などの造形的な視点に着目させる。 ・社会での役割や他者への優しさなど、生活を豊かにする視点をもたせたり、使うこと自体に面白さを感じることなどにも着目させたりする。	知 鑑 態鑑	身の回りの道路の写真だけでなく国としての道路デザインの考え方も紹介し、道の機能である「安全・円滑・快適」を意識付ける。 標示や標識などの意図と創造的な工夫などについて考えさせ、道としての機能の現実的な側面をしっかり伝える。 ワークシート 活動の様子
第二次	**主題や構想を練る** ・「〇〇につながる道」を主題にアイデアスケッチで発想や構想を練らせる。	発 態表	アイデアスケッチ 活動の様子
第三次	**作品に表現する** ・時間がある場合は、平面のアイデアスケッチと立体のアイデアスケッチとに分けて考えさせる。 ・別の手立てとして、学習度合いによっては一点透視図法でアイデアスケッチを描かせることもできる。 ・数名のアイデアスケッチを参考に鑑賞させるなどして立体制作に入る前の構想を確認する場をつくる。 ・様々な材料や用具の特性やこれまでの経験を生かし、自分の制作意図に合う表現方法を模索しながら工夫して立体制作を行わせる。	発 知 技 態表	人や乗り物のエリア分けや植栽について考えさせる声掛けなども発想につながる。 先に平面のアイデアスケッチから構想を広げ、立体物の試作品をつくりながらアイデアを練らせることもできる。その後、平面のアイデアスケッチをプロジェクターなどで押出発泡ポリスチレン（断熱材）の板に投影して、そのうえに立体物の試作品をレイアウトする活動を行う。 材料は教師がある程度そろえておき、必要なものは持参させるようにする。 アイデアスケッチ制作の後半から材料を見せておくことで、材料からも制作物のアイデアを広げられるようにする。 アイデアスケッチ 作品　ワークシート 活動の様子
第四次	**相互鑑賞会** ・鑑賞会で工夫を共有し、他者の視点を取り入れられるように助言する。 ・形、色彩、材料、光、空間、自然、優しさのある環境などから感じる造形や美術の働きに気付かせたり、道としての機能や通る人の心情や安全性などに基づいた表現の工夫や表現意図について考えさせたりする。	鑑 態鑑	ワークシート 発言の内容　活動の様子

中学３年生の題材を考える際のポイント

中学３年生の発達の特徴とは？

中学３年生の年代は、心も体も成長が進むとともに、高校受験なども近づき自分の将来を考えたり、社会や自己の内面などを見つめ直したりする中で、大人に向けての自己の考え方や価値観などが再構築されていく時期です。例えば、金箔が剥がれた古い仏像などを見て、「きれいではないが、美しい」といった美意識などを理解できる生徒も増えてきます。そのため、この年代になってできる学びを重視していく必要があります。

３年生では、２年生までの美術の授業で学んできた、ものを見る視点や発想したり鑑賞したりするときの考え方などを総合的に働かせて、自分らしい考えを追求していく学習が求められます。美術２･３下の教科書は、「学びの探求と未来」を分冊のテーマにしていますが、生活や社会の中にある様々な造形や美術を、これまでの学びや新たな学びを基に見つめ直し、今まで気付かなかったことに気付いたり、自分の価値意識をもって考えを巡らせたりすることで、美術が一層身近で深いものになります。

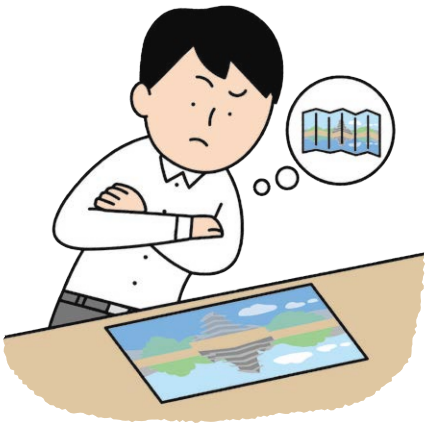
中学３年生の題材を考える際のポイントとは？

自画像を描く題材では、単に写実的に描くのではなく、自己の内面を見つめて表現することが大切です。その際、【造形的な視点】で示されている「この人物のイメージや印象は，どこから感じるだろうか。」という視点から参考作品を見つめ直すことで、構図や顔の角度、表情やしぐさ、背景、色彩などに着目してその効果を実感することができます。３年生ならではの心の葛藤を、具体的な着眼点をもって表現することで、より自己の内面に迫る自画像を追求することができます。また､ピカソの「ゲルニカ」の鑑賞などでは、10 代で写実を極めていたピカソが、なぜキュビスムのような表現で作品を描いたのかなどを理解するとともに、社会に与える美術の力や可能性なども深く考えることができます。

「快適な道を考え，表す　人が生きる社会と未来」は、普段、特に意識して捉えることがない「道」を題材に、安全、円滑、快適などの観点から課題を見付け、美術の働きにより改善を考える内容です。中学３年生にもなると社会を見つめる視点も広がり、様々な人の立場に立ってものを考えることができるようになります。毎日通っている道や遠くに出かけた時に通る道などを、視点をもって見ることで、これまで当たり前に見ていたものには、いろいろ課題や改善点があることに気付きます。必ずしも道のジオラマを制作することが目的ではなく、視点をもつことや考えることが重要です。このように３年生の美術では、自己の内面を深く見つめたり、社会に与える美術の力や果たす役割などを考えたりすることで、自分の美術の学びを探求し、将来にわたって美術や美術文化に関わるアンテナをしっかりと獲得し、心豊かに生きていくための基盤をつくっていくことが求められます。

＼ おわりに ／

これまで、紹介してきたように、義務教育の必修教科としての美術は、全ての国民に必要な学びとして、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することが求められます。それは、単に絵を描いたりものをつくったりすれば自然に育成されるものではなく、描くこと、つくること、見ることなどを通して、意図的に造形的な視点に気付かせ、考えさせるような学びの手立てが必要です。そして、題材を学習するごとに造形を捉えるアンテナが立っていき、中学卒業時までに様々なアンテナを獲得していることが大切です。その際、発達段階を踏まえた学びが重要になってきます。特に、３年生まで必修教科として学ぶ意味は、その年齢にならないと獲得できないアンテナがあるからです。現行の中学校美術科の学習指導要領の内容の取扱いには、「第２学年と第３学年の発達の特性を考慮して内容の選択や一題材に充てる時間数などについて十分検討すること。」が新たに示されました。日本文教出版の教科書は、特に中学３年生まで美術が必修教科であることを重視し、３分冊にこだわって作成しています。２年生と３年生で同じ学習内容ができてしまうのであれば、必修教科としては２年生までよいという考えになる恐れがあります。３年間の発達に即した美術の学びを大切にし、全ての生徒が美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるように、今回掲載している実践事例などを参考に、教科書を効果的に活用していただければ幸いです。



村上センセイの教科書利用のススメ

日文 教授用資料

令和 5 年（2023 年）6月30 日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33662

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F•B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690